

おおさか支局

〒530-8251 (住所不要)
毎日新聞社会部おおさか支局
TEL 06-6346-8443
FAX 06-6346-8444

メールはat-osaka@mainichi.co.jp
読者の皆さんの取り上げてほしいテーマなど、お寄せください。

【購読お申し込み】
フリーダイヤル0120-468012

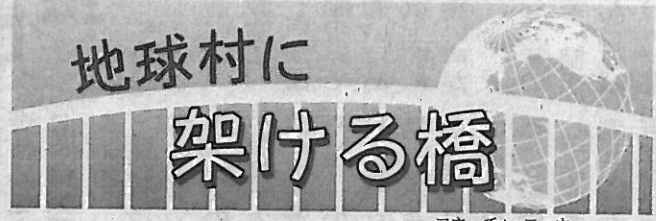
大阪

地域面3ページ→

〒653-0052 神戸市長田区海運町3-3-8 たかとりコミュニティセンター内 電話078-736-3040 HP=http://www.tcc117.org/facil/

NPPO多言語センターFACIL

入院していた男性(日本人)が突然、危篤状態に陥った。医師は延命措置を取ろうとして夫人(中国人)を呼んだ。しかし、病状を説明することができず、男性は昏睡状態のまま息を引き取った。
在日外国人が213万人を超える今日、類似の出来事が続発している。病院に限らない。職場で、学校で、家庭で……言葉の壁のために生じる問題は無数にある。そんなとき通訳・翻訳の頼もしい助っ人となってくれるのがNPPO多言語センターFACILである。
理事長の吉富志津代さんは京都外国語大学でス



ノンフィクション作家 高賛侑

ペイン語を専攻した。在神戸アルゼンチン領事館勤務の後、ボリビア領事館の秘書を務めていた90年、入管法の改正によって日系人の来日が急増すると、手続き方法などの問い合わせが殺到した。その後、領事館を退職した直後の95年に阪神大震災が発生した。恐怖におののく外国人のため、外国人救援ネットの設立やコミュニティ放送局「FMわいわい」の発足

地域社会と橋渡しを

言語問題で外国人を支援

「被災した外国人は震災関連情報が得られないため、すごく不安な思いをしていました。『避難所』という言葉が分からない人や、食べ物ももらうのを遠慮する人もいましたね」
外国人支援を続ける中で、言語問題はボランティア活動の範疇ではなく、確たるシステムを構築すべきだと痛感し、99年にFACILを設立した。神戸を中心に、自治体や企業、NPPOなどに



韓国朝鮮民画「文字圖」忠 一 絵・姜孝薇(温景)

対応言語は28、登録通訳・翻訳者は570人のぼる。多様な国の出身者が担当するため、依頼者がある意図に合った仕事をを行うことができ、例えば入学式という

多彩な仕事の中でも最も重要な一つが医療分野である。医師と患者の対話が成立しないため治療が困難になるケースは数知れない。とはいえ一般の通訳を利用すれば高額なギャラが必要になる。そのため、病院が外国人患者の治療を避けたがる傾向さえ見られる。
05年から兵庫県と協力し、県内五つの病院で医療通訳システムのモデル事業に取り組んだ。日本

語の不自由な患者から依頼を受けると通訳を派遣する。通訳は患者の状況や日本の医療制度を念頭に置きながら、両者間の意思疎通を図る。経費はFACILが負担し、患者が支払うのは交通費のみ。行政は病院とのつなぎ役を務める。
当初は消極的だった病院も医療通訳の重要性を認識するようになった。助成金に限りがあるため、通訳派遣数は年間100件程度に留まる。
しかし11年度からは神戸市の病院が費用の一部負担を開始した。
FACILは07年、多文化共生社会を目指すFMわいわいなど3団体と共に多文化キープグループを形成した。また、吉富さんはひょうご県市民活動協議会共同代表、大阪大学特任准教授などに就任し、ますます活動の枠を広げる。
「外国人にとって、日本語を勉強する機会を整備するとともに、母語で意志を表現できる権利も大切です。全ての人のアイデンティティを尊重しながら、外国人と日本人の双方方向のコミュニケーションができる仕組みをつくってきたい」
目指すは、地域社会と外国人をつなぐコーディネートナーなのである。